

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間:2009年10月上旬から11月中旬までの旬別  
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業:さんま棒受網漁業  
 対象魚群:南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量: 10月上旬から減少を始め、10月中旬には低位水準となる。11月上旬は断続的となり、終漁となる。  
 (2) 漁場: 10月上旬は、落石～釧路沖と襟裳岬沖が漁場となる。10月中旬～10月下旬は、落石沖の漁場は消滅し、厚岸～襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬は、襟裳岬沖の漁場も散発的となる。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 来遊量は増加し、10月上旬は中位水準となる。11月上旬以降は減少し、11月中旬は低位水準となる。  
 (2) 漁場: 10月上旬には漁場が三陸南部まで広がる。10月上旬～11月上旬は三陸北部～南部にかけての広範囲に漁場が形成される。11月中旬は、三陸北部の漁場が消滅し、三陸南部に漁場が残る。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月上旬は断続的に来遊はあるものの来遊量は少なく、漁場ができるのは10月中旬以降となる。来遊量は徐々に増加し、10月下旬には中位水準、11月上旬には高位水準まで増加し、11月中旬も高位水準で推移する。  
 (2) 漁場: 10月中旬は、常磐北部において漁場が形成される。10月下旬には漁場が南部まで広がり、11月中旬にかけて北部～南部が主漁場となる。

### 2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位減少	低位減少	低位減少	断続的	
	漁場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	厚岸～襟裳岬沖	厚岸～襟裳岬沖	襟裳岬沖	
三陸海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位水準	中位減少	中位減少	低位減少
	漁場	北部～南部	北部～南部	北部～南部	北部～南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	低位増加	中位増加	高位増加	高位水準
	漁場		北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部

### 3. 漁況の経過概要

(9月中旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月上旬をやや上回ったものの、前年を下回り、低位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は期前半に高くなったが、その後徐々に減少し、19日夜から再び増加した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石～霧多布沖であった。

落石南東～霧多布南沖の 15～85 海里付近(表面水温 13～18℃)。連日、大型船と小型船が多数操業。船間差が大きく、大型船は 1 晩で 100 トン程度漁獲できる船も多かったが、10～50 トン程度しか漁獲できない船もあった。小型船は 10～25 トン程度漁獲。

##### (3) 魚体

26～27cm モードの中型魚と 30～31cm モードの大型魚主体。中型以下の魚の混じり具合は、2～7 割程度で、徐々に中型以下の割合が増えてきた。大型魚は体重 150～180g 台が多く、中型魚は体重 90～100g 台が多い。